

会議ダイジェスト

編集委員会

・第 8 回和文会誌分科会

開催日: 11 月 9 日

出席者: 南雲委員長, ほか 26 名.

1. 14 件の論文審査報告がなされ, 掲載決定 10 件, 照会後掲載可 3 件, 修正依頼 1 件であった.

2. 「鉄と鋼」第 77 年第 3 号 (3 月号) に論文 14 件, 技術報告 2 件掲載決定した.

3. 会報記事欄の名称は, 投票の結果, イラスト入りの「ISIJ 情報ネットワーク」に決定した. 当記事欄は, 談話室, 技術・研究トピックス, 国際フォーラム, ブックレビュー, 従来の会告等で構成される.

・第 8 回欧文会誌分科会

開催日: 11 月 16 日

出席者: 南雲委員長, ほか 16 名.

1. 31 件の原稿につき審査報告がなされ, 掲載可 1 件, 照会後掲載可 6 件, 修正依頼 20 件, 返却 4 件であった.

2. ISIJ International, Vol. 31 (1991), No. 2 最終掲載原稿案及び No. 3 掲載原稿案が承認された.

3. Vol. 32, No. 3 発行予定の特集号 “Recent Advances in Modelling on Microstructural Evolutions and Properties of Steels” の Call for Papers 案及び発行スケジュールが承認された. また新たに特集号 “High Performance Composite Materials-Processing, Properties and Evaluation-” の企画が承認された.

4. 海外へ審査を依頼するための審査結果報告書案が承認された.

5. Supplement 発行について, もう一度小委員会を開催し発行の具体案を検討することになった.

図書出版委員会

開催日: 11 月 13 日

出席者: 松下委員長, ほか 5 名.

1. 平成 2 年度発行図書の販売状況報告予約制度導入により販売部数の予想がつきやすくなった.

2. 平成 3 年度出版予定図書の決定共研究委員会等の報告書, 名簿等 8 点の

出版が決定した.

3. 平成 3 年度予算案の検討

上記 8 点の印刷費等含め 17,084 千円の予算案が委員会として承認された.

4. 図書出版委員会の位置づけについて

昭和 61 年の管理 (発行部数, 価格の決定, 在庫管理, 販売方法等) 体制の確立のため編集委員会から独立した委員会として検討してきた. 最近その体制も整い, 軌道に乗ってきたため, 新しい出版図書の企画等やりやすくなるため編集委員会の下部機構とする案が承認された.

国際交流委員会

・国際ステンレス鋼会議第 6 回組織委員会

開催日: 11 月 6 日. 出席者: 横田委員長, ほか 11 名.

1. 仮プログラムの編成, 採用講演数 192 件 (日本 112, 海外 80) を 3 会場 3.5 日で編成.

2. Chairperson 候補者の選定

Co-Chairperson 制とし国内外 50 名の候補者を選定.

3. Post Conference Tour の選定

関東および中国地区に分かれ 5 コース 7 工場を選定.

4. 3rd Circular 案の検討

事務局案を承認.

標準化委員会

・第 97 回特殊鋼分科会

開催日: 10 月 4 日

出席者: 竹村主査, ほか 9 名.

1. JASO (自動技術会規格) M106 (自動車構造用鋼鋼材: 黒皮棒鋼・線材) 原案審議: ①表面きず, ②カルシウム快削鋼, ③寸法許容差等々について審議した.

2. JIS 機械構造用鋼改正原案審議

JIS/ISO 整合化推進 WG の結果に沿って原案作成, 審議を行うこととした.

共同研究会

・第 77 回製鉄部会

開催日: 11 月 15, 16 日 場所: NKK/

京浜. 出席者: 渋谷製鉄部会長, 楢岡コークス部会長, ほか 177 名 (第 1 日目).

渋谷製鉄部会長, ほか 87 名 (第 2 日目).

1. 共通議題: 「高炉用コークスに要求される品質とその作り込み」

コークス部会と合同で開催し, 討論を実施した. 発表論文はアンケート等も含め, 両部会から, おのおの 6 件であった.

2. 高炉分科会報告:

通産省製鉄課の鉄鋼設備技術研究会で調査研究した高炉設備技術の現状と課題について報告があった.

3. 自由議題: 2 件

4. 高炉改修報告: 3 件

5. 工場見学: NKK・京浜製鉄所を見学した.

・第 41 回コークス部会

開催日: 11 月 15, 16 日 場所: 東ガス

/本社 出席者: 楢岡コークス部会長・渋谷製鉄部会長, ほか 177 名 (第 1 日目)

楢岡コークス部会長, ほか 90 名 (第 2 日目)

1. 共通議題: 「高炉用コークスに要求される品質とその作り込み」

製鉄部会と合同で開催し, 討論を実施した. 発表論文は, アンケート等も含め, 両部会から, おのおの 6 件であった.

2. 自由議題: 6 件

3. 工場見学: 東京ガス(株)・鶴見工場及び川崎製造所を見学した.

・第 36 回電気炉部会

開催日: 11 月 1, 2 日 場所: 東京鉄鋼

/八戸. 出席者: 石原部会長, ほか 83 名.

1. 特別講演

「新製鋼技術研究会の経過報告」

講師 東京鉄鋼(株)生産本部 技術開発

チーム サブリーダー 三森 弘之氏

2. 研究発表

1) 共通テーマ: 17 件

「鋼材表面品質の改善」

—原料・製錬・連铸条件に関するもの—

2) 自由テーマ: 9 件

3) 工場見学: 東京鉄鋼(株)八戸事業所

・鋼板部会第 70 回厚板分科会

開催日: 11 月 8~9 日 場所: NKK/京

浜. 出席者: 伊藤主査, ほか 87 名.

1. 工場操業状況報告及び新規稼働設備紹介

2. テーマ研究発表: 「FA 化」について

3. 工場見学: NKK・京浜製鉄所 厚板工場

・条鋼部会第 69 回中小形分科会

開催日: 11 月 15, 16 日 場所: 東京鉄

鋼, トーア・スチール/東京. 出席者: 市田直属幹事, ほか 92 名.

1. 工場操業状況 (H. 2. 4~6)

2. テーマ研究

(1) 普通鋼グループ: ロール管理について

て一新材質ロールも含めて—

(2)特殊鋼グループ:品質の現状と今後について—端面,寸法,制御圧延/制御冷却—

3. 自由研究 計 13 件

・第 55 回鋼管部会

開催日:10月22,23日 場所:神鋼/長府北,新日鉄/八幡.出席者:高井部会長,ほか156(10/22),159(10/23)名.
(1)共通議題:「鋼管情報システムについて」

(2)工場見学

神鋼長府北:熱間工場,冷間工場,

チタン造管工場,被覆管工場

新日鉄八幡:スパイラル工場,小径シームレス工場

・第 67 回鉄鋼分析部会

開催日:11月9日 場所:神鋼/加古川.出席者:佐伯部会長,ほか96名.

1. 前回(第66回)議事録確認

2. 部会,分科会,小委員会活動報告(部分,化学分析分科会,機器分析分科会,表面分析小委員会,析出物分析小委員会)
3. JIS-ISOの整合化に関する新WGの提案(標準化企画WG)

4. ISOの分析関連の状況報告(鉄鉱石,鉄鋼)

5. 鉄鋼標準試料の状況報告

6. その他

・鉄鋼分析部会第 28 回表面分析小委員会

開催日:11月5日 場所:レイクサイド入鹿.出席者:大坪委員長,ほか11名.

1. 共同実験結果の報告書内容の読合せ(イオンスパッタリング,AES定量分析,AES状態分析,XPS定量分析,XPS状態分析,Siウェハー汚染分析)

2. 今後の活動計画について

・鉄鋼分析部会第 12 回機器分析分科会

開催日:11月8日 場所:神鋼/加古川.出席者:小野主査,ほか49名.

1. 本分科会経過報告

2. 各WG活動経過報告

(1)鉄鉱石の蛍光X線分析方法の規格改正WG

(2)高炉スラグの蛍光X線分析方法WG

(3)チタン合金の蛍光X線分析方法WG

(4)鉄及び鋼の発光分光分析方法の規格改正WG

(5)鉄及び鋼の蛍光X線分析方法の規格改正WG

3. 自由研究報告2件

・鉄鋼分析部会第 13 回化学分析分科会

開催日:11月8日 場所:神鋼/加古川.

出席者:岩田主査,ほか56名.

1. 前回議事録確認

2. ISO,他学協会状況報告

3. 各WG状況報告(ICP(Nb)分析法,フレイムレス原子吸光法(As),鉄鉱石分析JIS改正,鉄鉱石中S定量)

4. 鉄鋼分析JIS改正案文(解説)の審議(通則,P,B,Cr,Ta,As)

5. 新規テーマの協議

(Ti定量法,微量C定量,微量Al)

6. 研究報告:高純度鉄中の微量元素の分析

・鉄鋼分析部会第 9 回析出物分析小委員会

開催日:11月8日 場所:神鋼/加古川.出席者:松村委員長,ほか12名.

1. 研究発表

(1)第4回共同実験(MC型炭化物,Laves γ' γ'' δ 相)再分析結果

(2)第5回共同実験(Laves相)結果のまとめ

(3)第6回共同実験試料(γ η 相)に関する予備実験結果

(4)自発検討2件

2. 第6回共同実験の進め方について

・第 102 回計測制御部会

開催日:11月1,2日 場所:川鉄/千葉.出席者:石川部会長,ほか150名.

1. 研究発表:32件.分野別構成は,製鉄関係3件,製鋼関係6件,圧延関係9件,エネルギー関係1件,製品・半製品の検査2件,新技術・改善技術8件,その他3件.また内容別構成は,プロセス制御7件,FA5件,システム技術3件,センサ7件,知識工学10件.

2. 工場見学:川崎製鉄・千葉製鉄所

・第 43 回設備技術部会鉄鋼設備分科会

開催日:11月8,9日 場所:住重/新居浜.出席者:古賀部会長,堀内主査,ほか140名.

1. 保全指標報告:鉄鋼設備の'90年2月から7月の稼動状況・故障原因報告.

2. 共通議題:「原料処理設備における設備技術力の向上」について,アンケート調査報告と原料分野3件,焼結分野3件,計6件の事例報告.

3. 自由議題:10件

4. 講演:「鋼構造物のメンテナンス技術の開発」(三菱重工),「H-II ロケット射点設備について」(川崎重工)

5. 工場見学:住友重機械・新居浜製造所

特定基礎研究会

・第 5 回材料電磁プロセッシング部会

開催日:11月14~15日 場所:住金/東京本社.出席者:浅井部会長,ほか34名.

1. 部会運営について

2. 研究発表

(1)電磁場と物質の相互作用

(2)アーク放電を用いた固体金属の電磁微粒化法

(3)非定常電磁力による液体金属の鉛直加振

(4)電磁気力による熔融金属渦の抑制

(5)双ロール法におけるパドル側端の電磁気力による保持

(6)境界要素法によるコールド・クルーシブルの磁場解析

(7)有限要素法によるコールド・クルーシブルの三次元磁界解析

(8)電磁気圧による連铸初期凝固制御

(9)静磁場を利用した鋳型内溶鋼流動制御に関するモデル実験

(10)流動を考慮した高周波磁場内の溶湯メニスカスの形状解析

(11)シリコン電磁铸造法開発の現状

・第 3 回構造材料の信頼性評価技術部会

開催日:10月23日

出席者:田中部会長,ほか12名.

1. 高温強度WGの活動状況について

2. 環境強度WGの活動状況について

3. 研究成果報告書の骨子について

4. 次年度の計画について

基礎研究会

・第 5 回熱プラズマ研究部会

開催日:11月13日 場所:東京(本郷学士会分館).出席者:牛尾部会長,ほか22名.

1. 部会運営について(幹事会報告)

2. 研究発表

(1)ダイヤモンド薄膜合成用各種原料ガス供給時のマイクロ波プラズマ中のガス組成解析

- (2)電子ビーム溶接におけるプラズマ
- (3)チタンのプラズマ溶解に関する基礎的検討
- (4)DC アーク炉における黒鉛中空電極を用いたダスト処理プロセスの開発

鉄鋼基礎共同研究会

・第 5 回変形特性の予測と制御部会

開催日：11 月 6 日

出席者：吉永部会長，ほか 22 名。

1. 各 WG の活動計画の報告
2. データベースのデータ収集について

3. 共同研究用試料について
4. 話題提供

- 1) 鋼の等温変態線図のコンピュータシミュレーション（豊橋技科大・梅本）
- 2) 連続冷却された低炭素-低合金鋼のベイナイト下部組織と強度，靱性の関係（神鋼・勝亦）
5. 次年度の活動計画

21 世紀の鉄鋼業（西山記念技術講座） 開催報告

“21 世紀の鉄鋼業”をテーマとして平成 2 年 11 月 7 日（水），8 日（木）の 2 日間東京都港区芝の建築会館ホールで開催された。

第 1 日の講演は 3 題であった。

科学技術の進展と鉄鋼業（村上陽一郎・東大教授）
社会環境の進展と鉄鋼業（吉田春樹・興銀産業調査部長）
鉄鋼業から見た 21 世紀の製鉄環境

（中島一郎・通産省製鉄課長）

第 2 日目の講演は 5 題が行われた。

鉄の技術の歴史的展望（飯田賢一・東京工科大教授）
21 世紀における鉄鋼材料（中澤 吉・新日鉄取締役）
これからの鉄製錬技術（今井卓雄・川鉄取締役）
これからの鉄鋼材料プロセッシング
（宮脇芳治・NKK 取締役）

夢の次世代鉄鋼技術（徳田昌則・東北大教授）

特に第 1 日目の 15:00 から 17:00 まで，“ヒューマンフレンドリーなスチールテクノロジーを指して”をテーマとし，三田村外喜男（新日鉄取締役）司会のもと，21 世紀に向けて鉄の技術者，研究者，更にはこれから鉄を目指す若い世代に夢と目指すべき方向と課題を主眼としたパネルディスカッションが行われた。

パネラーは「人と自然に優しい 21 世紀の鉄鋼プロセス」を視点とし京極哲朗（住金取締役），「快適で豊かな生活を可能とする 21 世紀の鉄鋼商品」を視点とし副島利行（神鋼取締役），「全産業的視野からみた鉄鋼業の目指すべき方向と課題」中島一郎，「21 世紀の新しい文化と鉄鋼材料」村上陽一郎，「社会環境から見た鉄鋼業の 21 世紀の役割」吉田春樹，および「鉄鋼技術史の語る 21 世紀への期待」を視点として飯田賢一各講師より独自の考えがのべられた。参加者は 2 日間とも 440 名のほり，テキストも完売となった。

訂 正

解説「回転電極法によるチタン合金粉末の製造」（鉄と鋼，76（1990）12，p. 2108）p. 2111 本文右欄上から 15, 16 行目に誤りがございましたので，次のとおり訂正させていただきます。

（誤）	（正）
溶解条件のパラメーターを ……………（15 行目）	液体金属のパラメーターを……………
液体金属のパラメーターを ……………（16 行目）	溶解条件のパラメーターを……………